

いなベグリーン・ツーリズム モデル地区推進計画 実績報告書



【立田地区】



【鼎地区】



【川原地区】

平成27年度～令和元年度
いなべ市

目 次

第1章 計画の取り組みについて

第1節 計画の目的	2
第2節 5年間の概要	2

第2章 活動検証

第1節 全体検証	5
第2節 地区別検証	9
第3節 その他検証	16

第3章 今後の展開

第1節 目的・概要	26
第2節 計画期間	26
第3節 目標数値	27
第4節 推進体制	29
第5節 年間スケジュール	30



第1節 計画の目的

全国的に少子高齢化が進行し人口が減少する中、旧員弁郡定住自立圏域(いなべ市・東員町)では、出産・子育ての中心である20歳から40歳までの年代が都市部へ流出しており、今後より一層人口減少の加速が危惧されています。

また、担い手不足による地域の衰退、空き家・未利用施設の増加、高齢化や獣害による耕作放棄地の増加などが課題となっており、このような課題を解決するためにも、住みたい・住み続けたいと思えるまちづくりを行い人口流出に歯止めをかける必要があります。

このようなことから、過疎化や高齢化が著しい圏域内の中山間地域において、住民を主体とした体験型・着地型の観光としてグリーン・ツーリズムに着目した取り組みを実施することで、地域の活性化や振興を図ることを目的とします。

第2節 5年間の概要

本計画におけるグリーン・ツーリズムの活動は、各地区の委員会母体であるいなべグリーン・ツーリズム推進委員会(以下、委員会という。)により議論され、決定した方針に従い、活動を行ってきました。具体的なグリーン・ツーリズムの取り組みは次のとおりです。

【取り組みの概要】

平成26年度	いなべ市において、グリーン・ツーリズムを進めていくため、まずどこが適地か検証を行い、「辺地に係る公共的施設の総合設備のための財政上の特別措置等に関する法律(昭和37年法律88号)」に規定する要件を満たした川原、篠立、古田、鼎、二之瀬の5地区を選定しました。 これらの地区は、人口減少、少子高齢化が進む一方で、自然環境に恵まれ、グリーン・ツーリズムの中心となる資源である農林業等が営まれています。平成26年度は、まず、この資源をどう活用していくか検討するため、京都産業大学と連携し、大学生の若者目線から地域に内包する様々な課題の実態や地域資源の調査を行いました。それを基に平成27年度から5か年計画として「いなべグリーン・ツーリズムモデル地区推進計画」の策定を行いました。
平成27年度 (計画1年目)	平成27年度は、昨年度に引き続き、京都産業大学と地域資源の調査を行うとともにその調査で発掘した資源を活用し、大学生によるグリーン・ツーリズムの体験を実施しました。 また平成27年度から四日市大学との連携も始まり、空撮により地域に賦存する資源等の調査を行い、その調査内容を活用した提案を各地区に行いました。 学生の自由な発想や外部からの知見を取り入れることで、地域住民の新たな発想が生まれ、今後の具体的な活動方針を固めることができました。

平成28年度 (計画2年目)	平成26、27年度行ってきた大学との連携により、確立してきたいなベグリーン・ツーリズムの方針、方向性のもと、各地区実践的な取り組みを開始しました。 実践する体制として、篠立地区、古田地区は、立田小学校の跡地を利用したグリーン・ツーリズムを行うため、組織を一体化させ、立田地区の名称で活動を行うことになりました。また二之瀬地区がこの計画から離脱し、5つから3つのモデル地区数に変更となりました。 実践的な取り組みとして、グリーン・ツーリズムの体験を「小さなごちそう体験(モデル地区において、地域資源を活用した来訪者と地域住民の交流を図る体験)」と称し、6回開催しました。受け入れ側の負担の少ない形で進めていくため、まずは、いなべ市民をターゲットとした少数の受け入れのものとなりました。 平成28年度は、体験時のふるまい方など実践することで多くの課題が見つかりました。
平成29年度 (計画3年目)	平成29年度は、小さなごちそう体験を更に地域へ定着化させていくため、郷土料理体験を中心に合計11回開催し、毎月定期開催する体制を構築しました。 平成28年度と平成29年度の小さなごちそう体験を検証すると参加者は比較的年配の女性の参加が多く、またその年代の方がリピートする傾向にありました。本事業の趣旨である地域コミュニティの維持の観点から、子育て世代の家族などの若い世代の参加を促していく必要があります。その世代の参加率、リピート率の向上により、次世代の地域づくりへの参画に繋がっていきます。 地域住民向け体験が充実してきたことから、更なるステップアップを踏むため、近隣市町や名古屋圏の方をターゲットとした展開も進めました。 静岡県西伊豆町でグリーン・ツーリズムの体験を行い、全国から誘客実績のある有限会社フリーウェイズアウトドアプランニングに都市住民をターゲットとした体験作成支援と滞在時間延長を促す3地区のマップ制作を委託しました。 また都市部への周知を図るため、地区の方をモデルとした都市住民の来訪気運が高めるポスターを制作しました。 平成29年度は、若い世代へのアプローチ、市外からの誘客など事業目的を意識した活動が行えました。その結果、住民の主体的な活動意識が育まれ、計画終了時の目標として、自立・自走した体制構築を目指すことになりました。



平成30年度 (計画4年目)	平成30年度は、小さなごちそう体験を19回実施しました。平成29年度に1年通して、体験をやり切ったことの自信や気運の高まりから、平成29年度までの郷土料理作り体験だけでなく、各地区アイデアに溢れ、アクティビティーや地域回遊などの野外での体験が追加されました。ラインナップが増えたことや平成29年度の都市住民をターゲットとした体験作成支援で学んだことを活かし、体験プランを計画したことから、市外、都市部からの参加割合も増加し、更なる交流人口の拡大に繋がりました。 また、平成29年度の課題の一つであった若者の参加の促進を図るため、参加者へのアンケートを実施しました。その中で「お菓子作り体験」、「漬物作り体験」などが人気であり、その結果を踏まえ、年度途中での体験追加や令和元年度の体験メニューの検討に活かしました。 計画4年目となる平成30年度は、自立・自走した体制を具体的にしていこう年度です。現在、体験に係る準備等の人的支援は、終了しつつも、財政的な面での課題は残っています。この課題を解決するため、参加料の適正価格設定、地域産品の物販など体制全体を見直しました。 平成29年度、都市住民をターゲットとした体験作成支援を委託した有限会社フリーウェイズアウトドアプランニングに採算を意識した体験の作成手法や財政面での自立・自走した運営体制構築支援を委託しました。 この支援は、まず現地視察として、有限会社フリーウェイズアウトドアプランニング(静岡県西伊豆町)に行きました。ここで行われる体験を受けるとともに、現地で受け入れを行う方から体験プランの作成手法などのお話を聞きました。そして、この視察で学んだことを活かし、各地区体験を計画し、1回ずつ実施しました。 財政的な運営体制の構築支援を受けたことが地区にとって、将来ビジョンを考える機会となり、明確にすることができました。
令和元年度 (計画5年目)	令和元年度は、小さなごちそう体験を18回実施、5か年計画の総括また今後の体制、方向性を話し合う検討会を8回行いました。 小さなごちそう体験は、平成30年度の自立・自走した運営体制構築支援により身についたノウハウを活かし、採算を意識した体験を実施することができ、平成30年度より赤字額を3地区とも減らすことができました。 5か年計画の総括及び今後の体制、方向性を話し合う検討会では、3地区の代表といなべ市の担当者により、話し合いました。その中でこの5年間でみえた課題の検証から今後の取り組み方針を定め、3か年計画(令和2～4年度)を策定し、次年度からの活動に繋げることができました。

【総論】

本計画の実施により、グリーン・ツーリズムという切り口から住民が自ら住む地域の課題や将来について、考える機会となりました。

また活動が進むにつれて、体験による参加者数、リピート率の向上から来訪者と地域住民の交流機会の創出が図れました。

当初、グリーン・ツーリズムとは何かというところから始まった計画が、この5年間で多くの来訪者と地域住民との間で交流が生まれました。その中で、少しずつ関係人口の創出、移住者が現れ、本計画の一番の目的である自治組織の維持に繋がりました。

今後は、3地区が策定した3か年計画に基づき、更に交流機会の創出を図り、地域が主体となった持続的なコミュニティづくりを行っていきます。

第2章

活動検証

第1節 全体検証

●いなべグリーン・ツーリズム推進委員会について

本計画におけるグリーン・ツーリズムの活動は、各地区の委員会母体であるいなべグリーン・ツーリズム推進委員会により議論され、決定した事項に従い、活動を行ってきました。

○委員構成について

- (1)学識経験を有する者
- (2)モデル地区の代表者
- (3)その他市長が特に必要と認めた者

・令和元年度委員会名簿

NO	委員	氏名	役職等
1	会長	佐藤 洋一郎	京都府立大学 京都和食文化研究センター 特任教授
2	副会長	吉田 桂治	いなべ市副市長
3	委員	松葉 久道	川原地区代表者
4	委員	小寺 日出見	川原地区代表者
5	委員	斎藤 滋次	篠立地区代表者
6	委員	三羽 隆男	篠立地区代表者
7	委員	藤本 茂行	古田地区代表者
8	委員	藤田 久光	古田地区代表者
9	委員	伊藤 正光	鼎地区代表者
10	委員	伊藤 憲朗	鼎地区代表者
11	委員	耳野 健二	京都産業大学 現代社会学部教授
12	委員	千葉 賢	四日市大学 環境情報学部教授

○委員会開催実績

【平成27年度】

第1回委員会 平成27年8月4日
第2回委員会 平成27年11月27日
第3回委員会 平成28年3月11日

【平成28年度】

第1回委員会 平成28年7月14日
第2回委員会 平成28年10月20日
第3回委員会 平成29年3月9日

【平成29年度】

第1回委員会 平成29年6月15日
第2回委員会 平成29年9月26日
第3回委員会 平成30年2月22日

【平成30年度】

第1回委員会 平成30年6月6日
第2回委員会 平成30年11月6日
第3回委員会 平成31年3月7日

【令和元年度】

第1回委員会 令和元年6月5日
第2回委員会 令和元年10月23日
第3回委員会 令和2年2月25日



●本計画策定時目標指標の検証

本計画第6章 第2節で掲げた目標数値の検証になります。

No	指標名	目標/実績	H26	H27	R1
1	グリーン・ツーリズムの拠点数	目標値	—	2箇所	5箇所
		実績値	—	0箇所	11箇所
2	誘客人数	目標値	—	150人	500人
		実績値	—	0人	282人
3	空き家・未利用施設の調査施設数	目標値	10施設	—	—
		実績値	55施設	4施設	0施設
4	地域活動日数	目標値	15日	—	5日
		実績値	16日	18日	10日
5	地域課題への協力日数	目標値	15日	—	25日
		実績値	0人	22日	50日
6	学生等の活動延べ人数	目標値	—	—	—
		実績値	78人	171人	95人

1.グリーン・ツーリズムの拠点数

小さなごちそう体験の開催地数を計上しています。

川原:4カ所(川原多目的集会所、東林寺、ピザ窯、茶室)

鼎 :4カ所(夢かなえ荘、夢かなえ荘横の休耕田、県道沿い休耕畑、○鼎家)

立田:3カ所(立田会館、旧立田小学校、立田農園)

2.誘客人数

小さなごちそう体験の延べ参加者数を計上しています。

平成28年度から始まった小さなごちそう体験は、年々開催回数の増加に比例し、誘客人数が増えていきました。目標設定時の想定とは違った小規模の体験が中心となったため、目標値の500人とは離れた実績値となりました。

3.空き家・未利用施設の調査施設数

調査した施設の利用がはじまり、調査から活用に変わっていききました。

4.地域活動日数、5.地域課題への協力日数

本指標は、連携する大学の活動日数になります。よそ者、若者目線を積極的に取り入れ、活動に活かしていくため、特に京都産業大学との連携は計画時よりも多くなりました。

6.学生等の活動延べ人数

大学生の地域来訪数の延べ人数です。主に京都産業大学、四日市大学の学生になります。

●計画実施における事業の進捗状況

平成28年度より小さなごちそう体験による実践的な活動を開始することで、本計画の将来ビジョン(地区が主体となり、いなべ市からの支援のない自立・自走した体制の構築)が定まってきました。そのビジョンに向けた進捗状況として、実践年度から現在の比較を次のとおり行いました。

指標名	H28(実践年度)	R1年度
人的支援(地域内調整、組織運営事務、受付、広報)	地域内調整、組織運営事務、受付、広報	受付、広報
財政的支援(補助金)	予算額:各地区25万円	予算額:各地区20万円

平成28年度に小さなごちそう体験として実践的な活動を始めたことにより、本計画における将来ビジョンが明確化してきました。それは、地域住民が楽しく、この活動が生きがいとなることを前提に体験等を行い、交流機会の創出から地域活性化に繋げるものです。この活動が一過性ではなく、持続したものにしていくためにも、自走した体制を構築することが必要です。

この指標は、自走した体制を構築するため、「人的支援」、「財政的支援」の2つの視点から地区の進捗状況を検証したものです。

○人的支援

実践当初は、体験を行う上での相談や調整などの活動への直接的な支援を行っていました。年々活動が進むことで、この取り組みの定着化から、参画者の増加に繋がり、各地区の組織体制の強化が進んだため、人的支援が減少していきました。

本計画最終年度である令和元年度では、支援が減りつつも、広報、受付は、いなべ市が行っています。この5年間で地域の魅力を載せた冊子やポスター、受付も行えるホームページを制作し、体制を整えてきました。しかし、広報、受付媒体は充実したものの、現状地域内にそれを担える人材がおらず、地域おこし協力隊を募集することで体制を構築していきます。

○財政的支援

平成28年度は、初めての実践のため、練習やリハーサルを行い、その分の経費の計上にも考慮して、各地区25万円の補助金を予算に計上しました。

研修や実践を繰り返すことで、体験における効率的な実施、クオリティの向上により、少しずつ赤字を補えてきています。しかし、財政面での自立・自走を図るためには、体験だけでなく地域産品の物販や商品開発などの違った視点からのアプローチも図る必要があり、今後の検討課題の一つとなりました。

この2つの視点から、自走した体制構築を目指し、活動を行ってきました。今年度策定した3か年計画に基づき、更なる自立・自走を図り、本計画の目的である地域活性化、定住、移住促進に繋げていきます。

第2節 地区別検証

●川原地区

実績、課題	●小さなごちそう体験 【平成28年度】 ソーセージ作り体験(9/10)、菊花しゅうまい作り体験(1/14) 【平成29年度】 ウインナー作り体験(5/27)、ウインナー作り体験(9/16)、豚まん作り体験(1/20)、いなべ里めぐりウォーキング & 小さなごちそう体験(3/17) 【平成30年度】 さくらポークのウインナー作り体験(6/23)、茶会体験(7/22)、ピザ作り体験(8/11)、ピザ作り体験(10/13)しゅうまい作り体験(10/27)、茶会体験(11/17)、ロールケーキ作り体験(12/8)、豚まん作り体験(1/19)、漬物作り&ジャガイモ値付け体験(2/23) 【令和元年度】 茶会体験(4/13)、シフォンケーキ作り体験(4/27)、ピザ作り体験(5/4)、ジャガイモ収穫体験(6/1)、さくらポークのウインナー作り体験(6/29)、ピザ作り体験(8/10)、マドレーヌ作り体験(9/7)、ロールケーキ作り体験(12/14) ●委員会啓発事業 地区の方限定で体験会を開催することにより、地区内の方に活動主旨を伝え、活動への参画を促します。 【平成29年度】 マドレーヌ作り体験(6/24)、シュークリーム作り体験(9/2) 【平成30年度】 シフォンケーキ作り体験(4/26)、フロランタン作り体験(9/8) 川原地区は、地区内に養豚場を構えるさくらポークを中心に「食」に焦点をあて、活動を行ってきました。食の体験は、アクティビティなどの体験と比較して材料費がかかり、自走していくには、体験での収益だけではなく、物販やその他のアプローチを行っていく必要があります。 また、委員の高齢化が進み、今後この活動を継続していくためには、地域の若者を巻き込んだ展開を考える必要があります。
令和2年度からの目的	・商品開発による更なるコミュニティの強化、地域経済循環促進 ・活動参画者の増加による住民の生きがいづくり ・若い世代を巻き込んだ次世代を見据えた地域づくり

項目	実績値					
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	合計
誘客数	0	20	61	100	88	269
体験回数	0	2	4	9	8	23

※実績値は、小さなごちそう体験の実績となります。



●立田(篠立、古田)地区

実績、課題	●小さなごちそう体験 【平成28年度】 もみじ弁当作り体験(10/16)、ヨモギ団子作り体験(3/25) 【平成29年度】 トマト寒天作り体験(7/22)、むかごご飯作り体験(10/21)、里イモ団子作り体験(3/10)、いなべ里めぐりウォーキング & 小さなごちそう体験(3/17) 【平成30年度】 ポテトもち作り体験(9/22)、干し柿作り体験(11/10)、こんにゃく作り体験(3/9)、野草・薬草摘み体験(3/31) 【令和元年度】 ツリーイング木のぼり体験(5/12)、ミニトマトのプランター作り体験(7/6)、五平餅作り体験(9/14)、干し柿作り体験(11/9)、タツフェス2019(12/1) ●拠点整備事業 【平成29年度】 ・アトリエhitotema 地域おこし協力隊の田中翔貴隊員が地元の旧縫製作業所を借り受け、アトリエと活動拠点として整備。草木染めや叩き染めなどのワークショップを開催しました。 ・秀真竹炭工房 地域おこし協力隊の加藤潤一隊員が、地区の有志の人たちと立田公園内に炭焼き小屋を整備。竹炭の消臭グッズや花炭といった地域資源を生かした商品の販売が開始されました。また、立田公園の整備活動を開始し、ツリーイング木のぼり体験や森の音楽会など自然体験イベントの拠点としました。 【平成30年度】 ・古田地区旧公会堂 古田地区の皆さんが、善行寺境内にある旧公会堂を整備。ここを拠点に、活動の輪を広げ、古田道具市を開催しました。
-------	---

実績、課題	●京都産業大学の活動 【平成29年度】 ・遊学祭では、明行寺で京産大生オリジナルの紙芝居を披露。また写真の冊子を作成しました。 【平成30年度】 ・遊学祭では、明行寺で京産大生オリジナルの紙芝居を披露。立田公園の遊学歩道には植物の看板を設置しました。 【令和元年度】 ・遊学祭では、明行寺で京産大生オリジナルの紙芝居を披露。12月には、学生の企画によるウォーキングイベント「タツフェス2019」を開催しました。 旧立田小学校の活用が課題です。これまで、グリーン・ツーリズムを通して、地元ならではの食や地域資源を活用した体験活動そのものは順調に行ってききましたが、旧立田小学校とうまく結びつけられてきませんでした。立田には薬草という強いコンテンツがあり、この商品・サービス開発を含めて、旧立田小学校で体系づけていく必要があります。
令和2年度からの目的	・グリーンツーリズムの関連イベントだけでなく、地元の行事にも地区外や市外から広く来場者を招き、交流を拡大。移住者を増やす。 ・地元の人たちがプレイヤーとなり、地域の活性化。

項目	実績値					
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	合計
誘客数	0	19	55	51	114	239
体験回数	0	2	4	4	5	15



実績、課題	● 小さなごちそう体験 【平成28年度】 座禅体験会(11/27)、3色ぼたもち作り体験(2/11) 【平成29年度】 歴史ウォーキング&山菜採りハイキング(4/22)、がんたち団子作り体験(6/3)、親子蕎麦打ち体験(8/19)、紅葉座禅体験(11/18)、柚子ジャム作り体験(12/16)、いなべ里めぐりウォーキング&小さなごちそう体験(3/17) 【平成30年度】 そば粉のおやつ作り体験(5/26)、座禅体験会(7/21)、泥んこオブジャパン(8/4)、鹿角のアクセサリ作り体験(8/25)、そば寿司作り体験(12/1)、平成竹鉄砲・ポックリ合戦(3/3) 【令和元年度】 山菜採りハイキング(4/14)、田植え体験(6/2)、泥んこオブジャパン(8/4)、かし作り体験(9/21)、やまいも収穫体験&巣箱作り体験(11/24) ● 拠点整備事業 【平成28年度】 ・〇鼎家(かなえハウス) 地区内にある空き家を改修しました。この拠点では、小さなごちそう体験だけではなく、地区外の若者との地域活動など多くの活動に活用しています。 【平成30年度～令和元年度】 ・休耕地 耕作放棄地の利活用を行うため、県道沿いの畑、夢かなえ荘に隣接する田畑に獣害対策や受け入れの整備し、小さなごちそう体験での活用を行っています。 ● 地区外の若者を取り入れた関係人口づくり 「三重県 学生×地域活動マッチングサイト ぴたゼミ」を活用し、県内の若者に活動への参加を促しました。小さなごちそう体験のサポートや、〇鼎家、休耕地の整備等を地区の方と協力し、行いました。 【平成29年度】 活動回数:7回(6/3、9/18、10/15、12/2、1/13、2/23、3/20) 参加延べ人数:17人 【平成30年度】 活動回数:5回(7/1、8/31、9/1、11/18、12/15) 参加延べ人数:9人 これまで、安価な価格設定で体験を行ってきたため、赤字運営が続いています。全国的な相場を調査し、適正価格を設定する必要があります。 また委員の高齢化が進み、次世代の担い手不足が課題となっています。地区内だけではなく、外からの参画者も募集し、持続的な活動に繋げていく必要があります。
-------	---

令和2年度 からの目的	・活動参画者の増加による住民の生きがいづくり ・地区外の方の地域活動への参画による関係人口の拡大 ・休耕地の利活用による獣害対策の強化
----------------	---

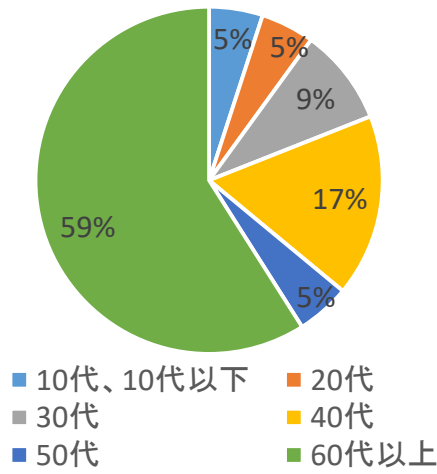
項目	実績値					
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	合計
誘客数	0	19	91	67	80	257
体験回数	0	2	6	6	5	19



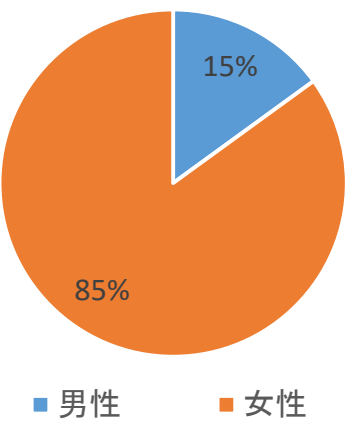
●小さなごちそう体験参加者アンケートの実施

いなべのグリーン・ツーリズムの実施にあたり、参加者がどのような感想を持たれたのかを確認するために、平成29年11月から平成31年3月までの間に行われた小さなごちそう体験において、お客様へのアンケート調査を行いました。
その結果は次の通りです(アンケート回答者数111名)。

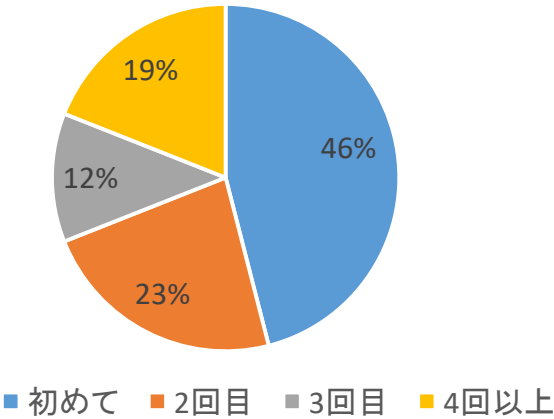
①参加者の年齢構成



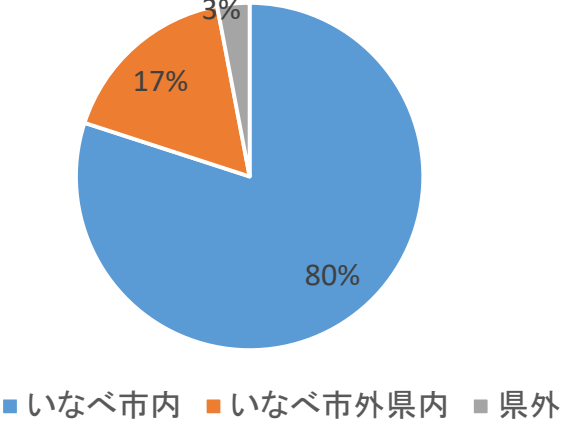
②参加者の男女比



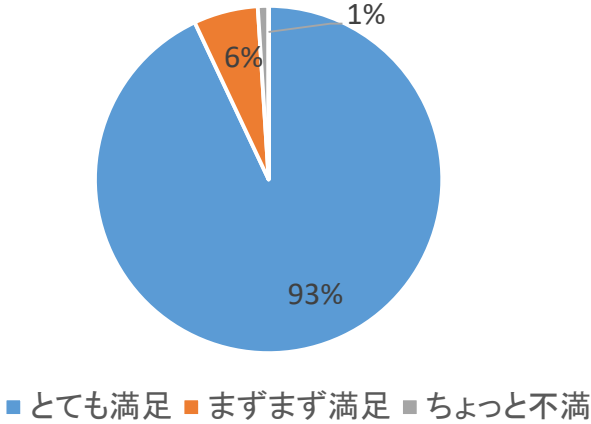
③参加の回数



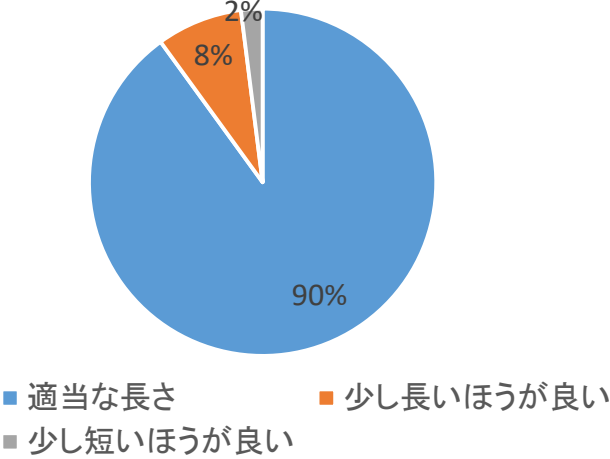
④参加者の居住地



⑤参加した感想



⑥時間の長さについて



自由記載欄の回答の一部

- ・毎回楽しみにしています。
- ・とても楽しい時間を過ごしています。
- ・女性が喜ぶ内容が多く、参加してとても楽しい。
- ・このような機会がないと地元の人と触れ合う機会がない。
- ・伝統や文化的な内容もあるので、もっと多くの話を聞きたい。
- ・一人で参加しても、必ず地元の人がサポートしてくれる。
- ・土曜日の午前中というのが助かる。



第3節 その他検証

●京都産業大学

【平成26年度】

「いなべグリーン・ツーリズムモデル地区推進計画」策定時において、若者目線で地域資源の発掘、地域課題を取り上げるため、地域に学生に入ってもらい、調査を行いました。

【平成27年度】

・現地調査5回(11/8、12/16、1/17、2/15、2/21、2/27、2/28)

・タツタンピックの開催

大学主催で、立田地区の地域資源を活かし、子供向けに体験やスタンプラリーを行い、地域住民を中心に約60名の参加がありました。

場所：旧立田小学校

【平成28年度】

・現地調査12回(4/23、5/5、6/30、8/14、9/6、10/9、10/26、11/19、12/4、12/10、12/18)

・地域に伝わるお話の紙芝居「玉眼の御木像」の作成

地区の明行寺に伝わる伝承を元に、紙芝居を作成しました。

・立田今昔史料集

地域の人たちから話を聞き、歴史を次世代に伝えていこうと史料集を作成しました。

【平成29年度】

・現地調査17回(5/6,7、5/26,27、7/16、8/28、9/18、10/7、11/21、11/25、12/13,15、12/16、12/20、1/23、2/24、3/3)

・地域マップの制作

地域回遊を促すため、学生の若者目線で地域資源を発掘し、立田地区のマップを制作しました。

【平成30年度】

・現地調査8回(5/5、5/19、5/25、6/23、9/22、10/19、11/5、2/20)

・地域資源を活用したワークショップの開催

学生の視点から調査、発掘した地域資源を活用したグリーン・ツーリズムの提案を2回、行いました。(第1回 参加者30名、第2回 参加者18名)

・立田公園における遊学歩道の植物看板製作・設置

地域のニーズに応え、遊学歩道の木々に、名前や説明を書いた看板を設置しました。

【令和元年度】

・現地調査10回(5/5、6/1、6/22、7/13、7/25、9/16、9/29、10/16、11/16、12/1)

・タツフェス2019の開催

大学生が企画。地域のポイントを学生が案内人となる地域回遊イベントを開催しました。(参加者17名)

・「江戸堤」紙芝居製作

前年度から継続して作成してきた地域の伝承を紙芝居として製作しました。この紙芝居は今後、地域行事「遊学祭」で披露されます。



●四日市大学

【平成26年度】

・北勢地域のグリーン・ツーリズム拠点づくりのための調査研究

文科省に採択された四日市大学「地(知)の拠点整備事業」の取り組み中で、いなべ市と連携を開始し、いなべ市北部集落の活性化を進めるために、地域の魅力調査を行いました。

自然資源と文化歴史資源について現地調査と文献調査を行い、その結果を「北勢地域のグリーン・ツーリズム拠点づくりのための調査研究」平成26年度報告書にまとめました。報告書には462地点の資源情報と14のモデルツアーコースが記載されました。

また、これらの情報を含む電子地図(PC版とスマホ版)を作成しました。

・いなべ市との包括連携協定の締結

さらに、いなべ市との連携を深めるために、包括連携協定を締結しました。

・ドローンを活用した地域の魅力発信

京都大学渡辺一生博士と連携し、鼎地区周辺をドローンで空撮してYouTubeにアップし、地域の景観の魅力を発信しました。

【平成27年度】

・モニターツアーの実施

モデルツアーコースでツアーを実施する場合の問題点を探るために、大学関係者やいなべ市に参加を募り、モニターツアーを実施しました。

・学生の長期滞在

鼎地区の協力を得て、学生の長期滞在(1週間程度)を行い、地域活動のお手伝い、子供会との触れ合い等を実施しました。

・獣害調査

鼎地区周辺の獣害分布状況を把握するために、ルートセンサス調査を複数回実施しました。この調査では、夜間に車を走らせて、出会う獣の頭数と種類を記録します。その結果、シカの分布密度の高い場所と時間帯を把握できました。

・報告会の実施

3地区にて、「北勢地域のグリーンツーリズム拠点づくりのための調査研究」平成26年度報告書の報告会を実施しました。

【平成28年度】

・「川原地区活性化基本計画」の策定

グリーン・ツーリズムにおける川原地区の活性化を進めるため、いなべ市の要請を受けて、川原地区活性化構想にかかる市場調査を行い、「川原地区活性化基本計画」の策定を行いました。

・鼎塚の整備支援

鼎地区が進める鼎塚の整備に協力し、整備案を提案しました。この整備が、翌年以降の関ヶ原踏破隊の訪問に繋がりました。

・ドローンによる獣害調査

前年のルートセンサス調査の結果を用いて、シカの分布密度の高い梅林公園の近傍で、渡辺博士と共同でドローンを用いた夜間の獣害調査も実施しました。

【平成29年度】

・関ヶ原踏破隊の映像制作

関ヶ原合戦で敗軍となった島津軍の一部が、この地域を通過した経路を、毎年、鹿児島県日置市の小学生が歩き、その小学生をお迎えするイベントがあります。このイベントは、60回続いており、伝統的なものとなっています。この伝統を多くの方に伝えるため、鼎塚の参拝の様子をドローンで空撮し、その映像を活用した情報発信を行いました。

【平成30年度】

・鼎地区合宿(9/6～10)

○鼎家(カナエハウス)に4泊5日で7名の学生が泊まり込み、地域資源の発掘や地域の文化や伝統に触れました。また、獣害パトロール、農地の雑草取りなど地域活動を地区の方と一緒にやり、地域交流を図りました。

【令和元年度】

・鼎地区合宿(9/6～9)

○鼎家(カナエハウス)に3泊4日で4名の学生が泊まり込み、地域資源の発掘や地域の文化や伝統に触れました。この4日間で感じたことを学生が地域の方に発表し、地域交流に繋がりました。



●地域おこし協力隊

【中村 京司】

期間:平成27年8月1日～平成27年12月31日

内容:グリーン・ツーリズムの推進

・地域資源の発掘調査

空き家、休耕地などの地域資源を調査し、利活用の提案を地区に行いました。

・地域イベント等への参画

地域内行事など様々な地区行事に参画し、地域交流を図りました。

【福岡 一介】

期間:平成27年9月1日～平成30年8月31日

内容:グリーン・ツーリズムの推進(川原地区)

・「川原地区活性化基本計画」の策定協力

四日市大学が策定する計画づくりに参画しました。

・地域資源の発掘調査

地域資源を調査し、利活用の提案を地区に行いました。

・PR活動

市内外のイベントに出向き、モデル地区のPRを行いました。またSNSを活用し、いなべの中山間地域の情報発信を行いました。

・地域イベント等への参画

小さなごちそう体験や地域内行事など様々な地区行事に参画し、地域交流を図りました。

【加藤 潤一】

期間:平成28年10月1日～令和元年9月30日

内容:グリーン・ツーリズムの推進(立田地区)

・秀真竹炭工場の整備

地区の人たちと協働で炭焼き小屋を整備し、地域資源として竹を活用し、炭焼きの文化を継承。竹炭の消臭袋や地元の植物を炭化してオブジェにする花炭などを製品化しました。

・古田地区における柿畑の整備

古田地区で放棄されていた柿畑を手入れし、柿生産の文化を継承しました。

・立田公園整備

ボランティアを募り、未活用の里山を活用しようと立田公園の森の整備活動を開始しました。

・ツリーイング木のぼり体験、森の音楽会の開催

整備した立田公園を活用し、親子で楽しめる自然体験イベントを実施しました。

・PR活動

SNSを活用し、立田地区の情報発信を行いました。

・地域イベント等への参画

小さなごちそう体験や地域内行事など様々な地区行事に参画し、地域交流を図りました。



【潜道 竜馬】

期間:平成29年4月1日～令和2年3月31日

内容:グリーン・ツーリズムの推進(鼎地区)

・休耕地活用した体験の実施

鼎地区にある休耕地を活用し、田植え、稲刈り体験を行いました。この体験では、現代の機会を使わない手植え等の手法を用いて行いました。

・〇鼎家(カナエハウス)の活用

空き家である〇鼎家において、定期的な体験会、講演会を行い、地区外からの誘客を図り、交流機会の創出を図りました。

自主保育団体の受入れ、古道具市、子育て支援講演会、その他マルシェ、ワークショップなど開催しました。

・PR活動

市内外のマルシェ等のイベントに出向き、モデル地区のPRを行いました。また鼎地区をSNSにより、常時広報しました。

・地域イベント等への参画

小さなごちそう体験や地域内行事など様々な地区行事に参画し、地域交流を図りました。

【田中 翔貴】

期間:平成29年4月1日～令和2年3月31日

内容:グリーン・ツーリズムの推進(立田地区)

・アトリエhitotemaを拠点施設として整備

旧縫製作業所であったが、活用されずにいた地元の建物を借り受け、手作業で改装。染色やアート体験、展示の場として開放しました。

・季刊フリーペーパーの発刊

立田地区を広く市外でPRするため、自身のアートによるアプローチを含めたフリーペーパーを季節ごとに発行しました。

・染色関連商品の開発、販売

地域の草花を使って、染色した手ぬぐい等を商品化。市外で販売し、立田の自然の豊かをPRしました。

・古田道具市

古田地区の人たちを巻き込み、自宅に眠ったままになっている。アンティークや、古い道具などを回収。その回収物を磨き、商品化して販売するイベント「古田道具市」を開催し、多くの人が訪れました。

・PR活動

SNSを活用し、立田地区の情報発信を行いました。

・地域イベント等への参画

小さなごちそう体験や地域内行事など様々な地区行事に参画し、地域交流を図りました。



●各種研修

【平成26年度】

・秋津野ガルデン、農産物直売所きてら視察

日時:9月21日

場所:秋津野ガルデン、農産物直売所きてら(和歌山県田辺市)

参加者:23名

内容:

グリーン・ツーリズムの先進地を視察することによって、活動を肌で感じながら、取り組みにあたって注意すべきことなどを学びました。

【平成28年度】

・いなべ市グリーン・ツーリズム研修会

日時:1月13日

場所:夢かなえ荘

参加者:23名

内容:

いなべ市のグリーン・ツーリズムを推進していく上で、本研修は、参考となる事例を学び、今後の推進方策や手法の参考としました。

今回は集落をあげて交流に取り組む多田喜一郎氏を講師にお招きし、「春蘭の里」の活動内容を伺い、参考としました。

・春蘭の里視察研修

日時:3月4、5日

場所:春蘭の里(石川県能登町)

参加者:17名

内容:

いなべ市グリーン・ツーリズム研修会(1月13日開催)の講師として、お招きした多田喜一郎氏の活動拠点である石川県の春蘭の里に研修会でのお話を踏まえ、先進地で行われている活動を肌で感じるため、現地へ視察に行きました。

【平成29年度】

・桑名保健所衛生講習会

日時:8月21日

場所:立田会館、夢かなえ荘、川原多目的集会所

参加者:31名

内容:

衛生管理全般及び飲食物を取り扱うイベント等の開催にあたる注意点を学びました。



・グリーン・ツーリズムインストラクター育成スクール

日時:12月5～8日

場所:茨城県つくば市 筑波研修センター(茨城県つくば市)

参加者:1名(いなべ市政策課職員)

内容:

農林漁業体験をはじめとする様々な自然体験活動等の指導を行う「体験指導者」を育成する研修に参加しました。

・三重県グリーン・ツーリズムインストラクタースキルアップ研修会

日時:1月10、11日

場所:答志コミュニティアリーナ(鳥羽市答志町)

参加者:1名(いなべ市政策課職員)

内容:

農山漁村地域におけるふるさと体験活動の充実に向けて、グリーン・ツーリズムインストラクター及びコーディネーター資格取得者のスキルアップに繋がる研修会に参加しました。

・おもてなし研修

日時:講義 2月24日(全体)午前

フィールドワーク 2月24日(鼎)、25日(川原)、3月3日(立田)

場所:各地区内

参加者:25名

内容:

講義では、体験インストラクター・ガイドの指導方法、体験プログラム作成の手法を学びました。

フィールドワークでは、講義で学んだことを踏まえ、有限会社フリーウェイズアウトドアプランニングの鈴木達志氏より、3地区をフィールドとし、各地区の地域資源の発掘、地域回遊の手法を学びました。

【平成30年度】

・衛生講習会

日時:6月30日

場所:夢かなえ荘

参加者:20名

内容:

グリーン・ツーリズム体験、農家レストラン、農林水産物直売所の衛生についてノウハウのある株式会社ホシザキ東京に講師になっていただき、グリーン・ツーリズム体験を行う上での衛生面での注意点についてお話しいただきました。



・有限会社フリーウェイズアウトドアプランニング視察（静岡県西伊豆町）

日時：10月20、21日

参加者：15名

内容：

グリーン・ツーリズム体験において、自立・自走し、会社経営を行う有限会社フリーウェイズアウトドアプランニングにその体制や体験プログラムを肌で感じるため、現地視察を行いました。

・自立・自走を意識したイベント企画研修

日時：12月9日

参加者：22名

内容：

有限会社フリーウェイズアウトドアプランニングの鈴木達志氏に講師になっていただき、各地区、採算を意識した体験プログラムの作成を行い、各地区その体験を実施しました。

川原：漬物作り&ジャガイモ値付け体験（2月23日）

鼎：平成竹鉄砲・ポックリ合戦（3月3日）

立田：野草・薬草摘み体験（3月31日）

【令和元年度】

・田畑を活用したグリーン・ツーリズム視察

日時：令和元年9月28、29日

場所：信州いいやま観光局等（長野県飯山市）

参加者：9名（鼎）

内容：

鼎地区は、地域の休耕田畑を利活用し、グリーン・ツーリズムに取り組んでいます。その先進地として、信州いいやま観光局に視察に行きました。



●その他

【平成28年度】

・県うおーくまっぷの制作

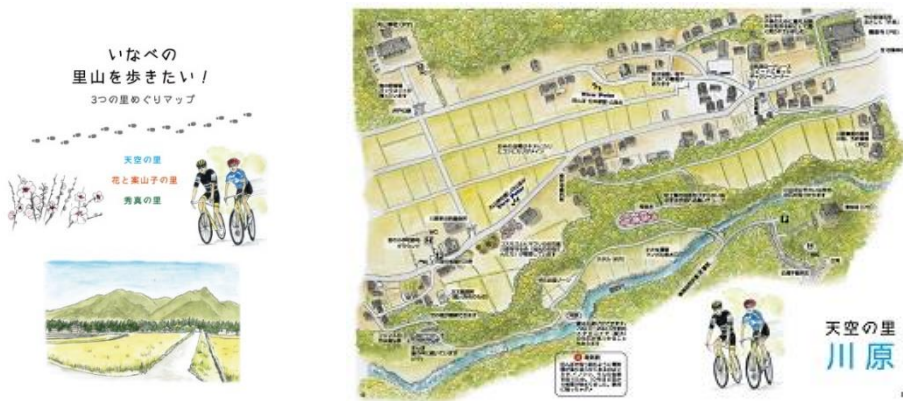
県地区での地域回遊を促すため制作しました。平成29年度4月に開催された県で夢かなえっ(山菜採りハイキング、地域回遊イベント)では、このマップを活用した体験を行いました。



【平成29年度】

・いなべ里山を歩きたい！ 3つの里めぐりマップの制作

地域の回遊を促し、滞在時間延長に繋げるため、3地区の見どころを載せたマップを制作しました。



・3地区のポスターの制作

3地区の魅力発信を行うため、地域の方をモデルとしたデザインにこだわったポスター制作を行いました。



【平成30年度】

・冊子「うつくしい暮らしの旅へ」の制作

都市住民の誘客を図るため、デザインにもこだわり、地区に住む人の暮らしをテーマにした冊子を制作しました。



・いなベグリーン・ツーリズムのホームページの制作

自らのホームページを持つことで、今までのいなべ市が行っていた広報、受付業務を地域で担えるように制作しました。



第1節 目的・概要

5か年の活動検証を行い、その中で出てきた地域課題について、今後グリーン・ツーリズムを通じてどう取り組んでいくか検討しました。

その検討結果から、3地区の自治組織の維持を目的に3地区の地域住民により、3か年計画が策定されました。

【基本方針①】

地域住民をはじめとする多くの方に委員会の趣旨を伝えることで、活動参画を促し、持続可能な地域コミュニティを構築します。

【基本方針②】

体験参加等による来訪者が増加することで、交流機会を創出し、交流人口及び関係人口の拡大から移住、定住に繋がります。



【内容①】

活動参画者を促すことにより



- ①組織体制の強化から活動幅の拡大
- ②若い世代の参画から長期的な活動
- ③交流人口及び関係人口の拡大
- ④移住、定住

【内容②】

交流機会を創出することにより



- ①来訪者への地域愛醸成
- ②交流人口及び関係人口の拡大
- ③移住、定住

第2節 計画期間

令和2～4年度の3年間とします。

第3節 目標数値

・体験活動の実施回数

地区名	実績値	目標値		
単位:	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
川原	8	5	6	7
立田	5	4	5	6
鼎	5	4	4	4
合計	18	13	15	17

小さなごちそう体験等(地区外の市民との交流を目的として実施する収益性を伴う事業)の実施回数

・体験活動の参加人数

地区名	実績値	目標値		
単位:	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
川原	88	90	100	110
立田	102	50	60	70
鼎	80	70	80	90
合計	270	210	240	270

小さなごちそう体験等(地区外の市民との交流を目的として実施する収益性を伴う事業)の延べ参加人数

・スタッフ人数

地区名	実績値	目標値		
単位:	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
川原	1	1	1	1
立田	0	2	3	6
鼎	0	1	1	1
合計	1	4	5	8

本取り組み関わる地域住民等の増加人数

・地区への新規移住者数

地区名	実績値	目標値		
単位:	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
川原	0	0	0	1
立田	3	1	1	1
鼎	0	0	0	1
合計	3	1	1	3

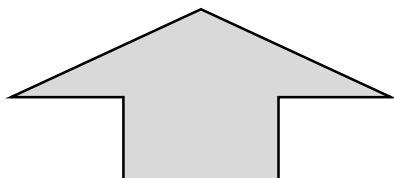
3地区への移住者(Uターンも含む)数



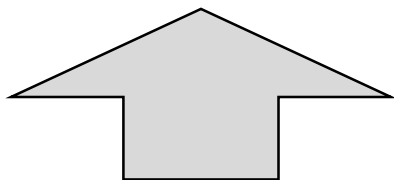
第4節 推進体制

委員会は、グリーン・ツーリズムの取り組みを進め、この3地区での交流機会を創出することで、「3地区の自治組織の維持」に繋げていきます。

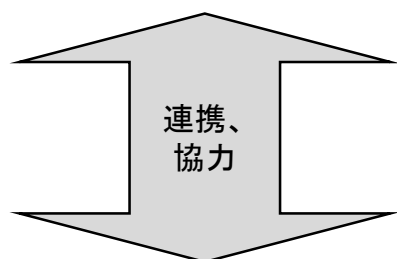
3地区の自治組織の維持



住民の生きがいづくり、高齢者の元気アップ、地域活性化
交流人口の拡大、定住、移住

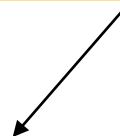


企業、教育機関、行政、個人等



連携、
協力

地域住民等の参加



いなべグリーン・ツーリズム推進委員会
広報、体験受付、連携事業の調整

鼎(体験実施)

川原(体験実施)

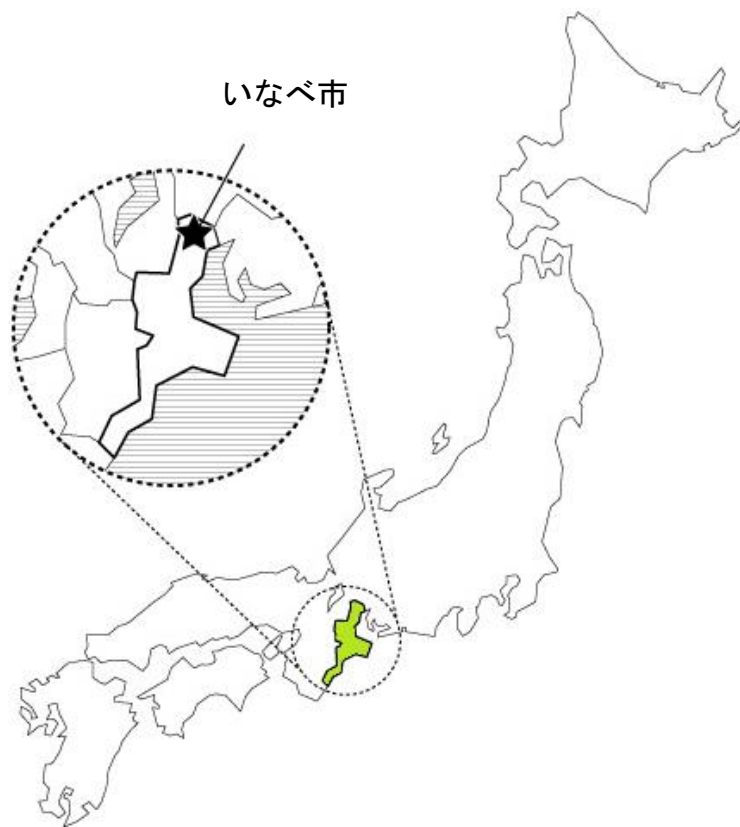
立田(体験実施)

第5節 年間スケジュール

事務手続き、会議開催等の年間スケジュールです。

月	会議	実施内容(全体)	実施内容(地区ごと)
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			・各地区で次年度の計画(いつ何を行うか)の検討
10月			↓
11月	○	・3地区の計画(各地区計画のまとめ等)の検討	
12月		↓	
1月	○	・3地区の計画(各地区計画のまとめ等)の確定	
2月		・次年度の広報開始	
3月	○	・今年度目標値見直し、反省	・今年度各地区実績報告

※その他、必要に応じて、会議等を行う。



いなべグリーン・ツーリズムモデル地区推進計画実績報告書	
モデル地区	川原地区、二之瀬地区、篠立地区、古田地区、鼎地区
発行日	令和2年3月17日
編集	いなべ市企画部政策課 〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜31番地 電話 0594-86-7741 https://www.city.inabe.mie.jp/
協力	一般財団法人都市農村漁村交流活性化機構